

2020年度 認定こども園 はまでら保育園 自己評価結果報告書

1. 本園の教育・保育目標

こどもたちに力を与える保育

元気（礎の力）生きる基礎となる健全な身体を養う

自立（個の力）自分で出来る、自分でやってみようという気持ちを養う

自律（復の力）葛藤を乗り越え、仲間といることの喜び、手助けをしようとする優しさを養う

表現（多の力）仲間や大人に向けて自分を表現するとともに、社会の中の自分を意識する

2. 2020年度の園全体のテーマ・目標

ゆったりとした環境の中で、個々の生活リズムを整え、心身共に健やかに育っていけるよう配慮する。発達に応じた豊かな遊びを取り入れ、生活やあそびへの意欲を育む。

保育者との信頼関係の基で、基本的な生活習慣の自立の芽を育てる。豊かなあそびの中で健康な身体をつくり、言語の習得をしながら友だちに関心を持って育ちあえるように配慮する。

基本的な生活習慣を身につけ、身の回りのことを自分でしようとする。様々な経験を通して、自分の思いや欲求を言葉で表現しようとする。保育者や友だちと関わりながらみんなとあそぶ楽しさを知る。

様々なあそびを通して基本的な運動機能を高め元気な体をつくる。自己主張をしっかりと、友だちとの葛藤を乗り越え、互いに思いを受け止められるようになる。

健康で安全な生活をする。保育者や友だちとの関わりを深め、喜んで様々な活動に取り組む。思いやりの気持ちを持ち、仲間意識を育てる。

生活やあそびの中で、自分の思いを伝えたり、相手を受け入れたりしながら、友だちとの信頼関係を深める。みんなが1つの目標に向かって、活動する中で一人ひとりが表現し、年長児としての自信をつけていく。

3. 目標・計画の達成及び取り組み状況

保育内容の共通認識	乳児保育:育児担当の理解 一人ひとりの園児と丁寧に関わりと養護 幼児教育:プロジェクトテーマ保育の理解 遊びや生活、様々な体験を通しての学び
保育教諭の資質向上	専門性を高めるための研修への積極的な参加 定期的な園内研修の実施により、保育と支援の理解を深め、協働意識を明確にする。フラットな職員体制の構築で全職員が共通認識を持ち、協力関係が築けるようにする。
保護者への支援と連携	連絡ノートの活用、保育参加(オープナー)、保育参観、個人懇談、クラス懇談、行事への参加。 保育内容を保護者と共有する為の説明として「ドキュメンテーション」の掲示を活用する。「ポートフォリオ」を作成し、こどもの成長を共有する。 今年度は、保護者向けの育児講座を行うなど、子育てに関する相談・援助・個別の支援を積極的に実施する。

地域子育て支援	園庭開放（ハッピーアンカー）を活用して、未就園の保護者に向けたサポートと共有できる時間の提供
健康及び安全	規則正しい生活習慣を身につける為の支援 健康診断の実施（内科・歯科・聴力検査・視力検査） 尿検査の実施（4・5歳） 災害への備え 安全計画作成 散歩マップ作成 津波避難・避難経路作成 大阪 880 万人総合避難訓練への参加 定期避難訓練・消火訓練・防犯訓練・交通安全教室（2回） 全職員の心肺蘇生法研修の実施と心肺蘇生グッズの携行

4. 認定こども園の総合的な評価結果

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行により、大きく変化した1年となった。感染防止でできないことも多々あったが、今だからできることを考え、保育の中で子どもたちと楽しみながら新しい保育への取り組みを行ってきた。

いつもおこなってきた保育の見直し・行事の見直しをすることで、日々の保育を大切に、こどもの良いところを改めて見つけ、関わる事ができたように思う。

園外研修に思うように参加できなかったが、個々の専門性を高めようとする意識は育ってきたようで、次年度の委員会活動へとつながっている。

5. 今後の取り組むべき課題

保育内容の充実	異年齢保育をさらに充実させ、保護者の理解を深める。 プロジェクト保育を充実させ、主体的な学びを充実させる。 記録と評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。 乳児クラスの担当制・幼児クラスの異年齢保育・同年齢保育の充実とふり返しを行い、保育・教育の質の向上に努める。
保護者支援	子どもたちの育ちを保護者と共有する機会（保育参加、参観、個人懇談、育児講座）を実施し、子育てに関する相談・援助・個別の支援を積極的に実施する。 特別な支援の必要な子ども（外国籍の子どもも含む）に対し、適切な指導や援助、関わりが持てるようにする。
子育て支援の取り組み	現状取り組んでいるこども園での場の提供を継続すると共に、未就園保護者が来園しやすい内容を常に計画して取り組む。 園で取り組んでいる子育て支援事業をPRしていく。
環境整備	新型コロナウイルス感染予防の徹底と臨機応変に対応することで、園児・保護者・職員の安全確保に尽力する。 老朽化した設備・建材等の補修を行う。 砂場周辺の改修工事。 ICTの導入後機器の見直し、さらに利便性と効率化を意識した取り組みを進める。